

## 「市長との座談会」 市民の皆様からの質問や意見交換などの要約

日 時 令和元年12月23日（月）午後7時から

会 場 文化会館小ホール

藤田市長が加茂市行財政健全化推進計画（案）、企画財政課長が資料集（案）を説明し、その後、質問・意見交換を行いました。

（質問・意見） 議員定数の削減。18人から15人、あるいは14人にもという話はあるが、当局にはそのような考えはあるか。

（市長） 議員定数については議員さんが検討しているところだと思う。

（質問・意見） 議員の皆さんには（定数削減の）話があるのか。

（市長） 毎月、話し合いの場がある。そこで話し合っていると聞いている。

この任期中には変わらない、変わるなら次の任期からだと思う。

（質問・意見） 議員さんのなかで具体的な話が出ているのか。議論だけで終わるのか。

（議長） 12月議会で議員報酬3%削減が全会一致で決まった。1月から今任期中は3%削減になる。定数については毎月の議員意見交換会で検討している。（議長の）2年の任期中に一定の方向性を話し合い、皆さんに示すことを目標にしている。4年の前期の間に皆さんにお示ししたい。

（質問・意見） 職員人件費削減、6万円×215人の約1,200万円。

職員数は平成13年から30年までで、約3割も減っていて、かつ、給与まで下げるのは士気に影響する。組合と丁寧に慎重な交渉を続けていただきたい。

（市長） 一般職の給与削減については、これから組合と交渉する。加茂市の財政状況を説明したい。

これからも丁寧な説明は必要だと思っている。合意がない限りは行わないと約束している。一方的に先行して削減することはない。

（質問・意見） 保育園の統合も書かれてある。公立保育園5園の定員は450人。1年前の実際の幼児数は223人、定員の半分しか埋まっていない。

芝野保育園だけは90人の定員に対し81人で90%。加茂保育園は37.8%、高柳保育園は20%の充足率。定員を大きく下回る。加茂保育園と西宮保育園が統合しても、西宮保育園の定員でやっていける。高柳保育園は12人が通っている。民間の七谷保育園でカバーできている。1つの箱は運営すると相当の維持管理費が掛かり、保育士の人件費もある。前向きに検討を。

（福祉事務所長） 全国的に子供の数が減っている。同じく加茂市も子供の数が減ってきている。

公立保育園も言われたとおりの状況だ。今年は加茂保育園の応募が増えている状況だ。段階を踏んで考えていきたいと思う。

しかし保育士が足りない。保育士の募集をしているが応募がなく保育士が足りないのが現状。

このようなこともあり、いろいろと検討している状況。地元の方と保護者と十分な説明をして、そのうえで進めていきたいということを準備し、検討している状況だ。

(質問・意見) コミセンの使用料に関して。カラオケの使用料が無料から500円などと書かれている。例えば上条コミセンは社会教育登録団体の会議室使用料は無料である。

この資料では社会教育登録団体を明示しているところと、そうではないところがある。社会教育登録団体の使用料は行財政健全化推進計画の対象になるかどうか。

(福祉事務所長) いま検討中。今後、方向性を出していく。

(質問・意見) 災害のため不測の事態に備えて3億円の基金を積み立てるが、削減ばかりでは市民の停滞感が生まれる。

新市長で、女性の視点ということで、新年度予算では今までと違うことを予算編成で見せてほしい。

(市長) 削減ばかりでは市民の停滞感があるとよく言われる。気を付けなければならないと思う。

新年度予算はなるべく将来に希望を持てるような予算を少しでもつけていきたい。

女性の視点でといわれるが、私が女性なので、その視点で予算がついたかは分からないが、結果としてそうなればよいと思う。

(質問・意見) 12月1日のお知らせ版に、4月に暮らしの便利帳を民間と共同発行する。

冊子の形としては、会社の方である程度固定した項目(内容)で作るのか。それとも加茂市の独自性を出せるのか。加茂市の福祉サービスが載っている、明るい暮らしのお手伝いを加えて一冊にすれば経費が浮く、検討してほしい。

(総務課長) 暮らしの便利帳。ある程度のレイアウトは会社で作っているものがあり、そのレイアウトに乗っからせてもらう。中身は加茂市のもを出してもらう。

暮らしの便利帳のなかには、福祉関係の情報も入るが、それに収まれば、明るい暮らしのお手伝いはいなくなる。しかし、全体のボリュームがあるので、明るい暮らしのお手伝いが入りきるかどうか。

契約したばかりで、これから中身を検討していく状況だ。

(福祉事務所長) 明るい暮らしのお手伝いと1冊にできればベストだと思う。しかし、福祉の冊子は補助金の対象になっているので、それも勘案しながら詰めていきたいと思う。

(質問・意見) インフルエンザ予防接種の削減について、大人は理解できるが、13歳未満の負担金が多いのでは。

(健康課長) 1回1,500円を2回助成、助成の金額は3,000円。

今までは、1回目は無料で2回目を有料にしていた。1回で3,000円より、2回で1,500円ずつのほうが、予防接種をちゃんと受けてくれると医師会も言っている。

(質問・意見) 行財政健全化推進計画(案)について、はじめに行財政健全化プロジェクトチーム(P T)で検討し、次に有識者会議、その後に議員。積極的に議員は検討しているのか、逆ではないか順番が。

議員のやる気がないように市議会に傍聴へ行くと見える。ここまで市の基金が減った経緯を反省しなければダメだ。市議会議員の雰囲気はないだろう。有権者が検討しなければならない。

生田屋の状況はどうなったか。美人の湯は、なんとか検討しなければだめだ。健康運動に関して見附市は積極的だ、金をかけるべきところはかけてほしい。金がないのに、メリアで何かするのは反対。葬式電報は止めてほしい。産業について、加茂市、燕市、三条市とあるが加茂はがっかりする感じがある。有識者がどんな考えを持っているのか。

(副市長) 議員の関わり方について。最終的には予算に反映されるのは3月議会。予算審議を経てこの計画が実行される。議員の皆さんは公職選挙法による選挙によって、それぞれ、その背中には大勢の市民の皆さんの意向を得て活動している。職員も敬意を表しているし、議員さんはちゃんと関わっている。

(市長) 生田屋について、これから新町の商店街の方と区長とも話し合いをして方向性を示したいと考えている。

美人の湯は、いまは無くさない方向。官民連携ができるか検討中。令和3年度以降、掃抗工事が必要で大きな修繕が必要になる。それを目処に結論を出したいと思っている。多額の費用をかけて続けるのか、やめるかの判断をしたいと思う。

健康でいることは、市民のみなさんが希望していることだと思う。新年度予算で予算をつけていきたいと思う。

メリアについては、1階は具体的に示すことはできない。その結果が出てから、3階は市が取得したいと思っている。賛否はあると思っているし、活用法を示さないといけないと考えている。

私が市長になってから、交際費で弔電をだすことを廃止している。お悔やみの言葉と線香をセットで出しており、葬儀で読まれている。それを弔電だと思われる人もいるので、お悔やみの言葉が必要かどうかなども考えたいと思う。

産業について。いまある地場の産業の育成と、大きな工場の企業誘致の声もあるが、すぐに結果はでないが検討していきたい。さらに、若い人で起業したい人の支援もしていきたいと思う。

(質問・意見) 財政の健全化しか取り上げていない。災害対策のために3億円貯めようというもの。

座談会では、加茂市の展望があってもよい。全面で福祉のこと。加茂市の市政、少子化、人口減少に対する策があってもいいのだが、ほとんどが福祉の話。

加茂市の特徴的なことや、いい町のPRを市長がするのであれば良いと思う。加茂がしぼんでいって住みたくなくなりそうな感じ。しかし、公債費をみると加茂市は悪くない。いろんなやり方を駆使してほしい。

風呂の100円、200円を貯めていくとかは、小さい話。基本的には反対である。もっと市長は将来的な話をしてもらったほうが良い。職員の給与削減は反対。加茂市の職員給与は高いというが、加茂市の職員の給与を減らせば、市民の給与が減る。一般職の給与削減は辞めてほしい。

(市長) 昨日の座談会でも同じような質問があった。

この先の展望は次の予算のとき、3月議会に施政方針演説があるので、そのときにははっきり示したい。来年度から総合計画を立てる。加茂市にはなかった総合計画のときにお示しできると思う。

それ以前に行財政健全化をしないと今年度赤字になることを理解してほしい。行財政健全化が先行した。この会は行財政健全化の説明がメインである。それ以外の質問も受け付ける。

加茂市が日本一の福祉のまちだとは思っていない。高齢者の福祉が安かったというところはあるかもしれないが、それ以外の福祉が充実していたとは思っていない。

学校施設がボロボロだったり、保育園が雨漏りしている施設がたくさんある。

水道管の老朽化などが進んでいる。その財源はどこから出るか。どこから削らなければ、使えるお金がない。行財政健全化で少しずつでも、どこから貯めていかなければならないと考えている。人によってどこが大切か、市民一人ずつ違うが、少子化、人口減少が一番の課題、それを何とか食い止めるための方向にする予算をつけたい。

(質問・意見) 行財政健全化推進計画(案)の結びについて。行財政ではなく、市長の考えの一番のところが分からない。教えてほしい。

子育て支援の立場から聞くと、市外、県外からの子育て中の若いお母さんたちが、加茂はとってもゆったりして住んでいて良いと言ってくれる。

これからもずっと加茂に住んでいたいと言ってくれるまちになってほしいと思っている。

西加茂保育園の屋根が真っ赤に錆びて傷んでいてさびしい。金の無いのは分かるが、せめて子供に関わる所は眼がホッとするような工夫ができればいいと思う。

(市長) なにが重要か。公約の中で述べているが一番重要なのが教育だと思っている。子どもたちも大事だが、大人も学び続けられる環境をつくっていききたい。教育、文化もそうだが、それがすべての基盤になっている。産業もそうだが、どういった人が加茂市にいるか、どういった人材を育てていくかというのが、すべての加茂市の基盤になると思っている。

地域の中で、加茂市の中でどういった人が育っていくか、育ててほしいのかを考えながら、そこに予算を使って、政策を行っていくかということになると思う。

加茂は住みやすいと思っている。自慢できるところがたくさんあるので、そこはしっかり残していききたい。ただ、施設の老朽化は、子供のいる環境としては良くないと思うので、よくしていきたい。

(質問・意見) 美人の湯の利用が良くない。食べ物が非常に悪い。

魅力のある料理が他の施設にはある。地元農家の素材を取り入れ、自慢のできる料理を作り提供すれば加茂市の宣伝と利益になる。

今、いろんな企画をしていて、人が入っているようだ。新年度から立派な提案をお願いします。

加茂市のまちなかの商店街が、シャッター通り。若い人があふれるくらいの店を提供し、小京都加茂の魅力が出せるように作り上げて、他所から観光に来られる街づくりをしてほしい。

駅に近くて便利である。人が作るまち、愛着の持てるようなまち、ゆとりのある雰囲気のみちづくりを考えてほしい。

(副市長) 美人の湯の料理の話はいろんなところで伺っている。今年から、毎月、料亭組合と話し合いを行っている。今まではアイデアを出しても通らなかったことがあったが、料亭組合もいろいろなアイデアを持っているので、それが実現できるようにやってみるのも手だ。

地産地消も大事で、加茂市の特色ある食材を使って、ここでしか食べられないような逸品がでてくるといいと思う。

東京から移住してきた人の店舗が出てきている。核になるような店舗が出てきて、明るさが見え始め

ていると思う。

行政が何でも主導でまちづくりを行うのではなく、まちづくりを考える民間のグループ、商工会議所青年部、青年会議所などいろいろなアイデアを出してきた人がいる。そういった人たちを含めて産、学、官、金というような、学生さんたちも含めて、まちづくりを考えていくような仕組みをつくりたいと思う。そうすれば、まちなかで起業があるのではないか。

(質問・意見) 市の財政を立て直しているのは、よく分かった。市長にお願いがある。市民に元気が出るようなキャッチフレーズを。市民に分かりやすく、市民をその気にさせるようなキャッチコピーを作してほしい。

(市長) いろんなところから知恵を出していきたいと思う。次の予算のときか、総合計画のときに市民に分かりやすいかたちで示していくようにしたい。

(質問・意見) 市税のこと。法人市民税が平成13年度から30年度にかけて減っている。平成16年度を見てみると、平成30年度で半分以上になっている。どういう意味か。

(企画財政課長) 市税の法人の動きは平成16年度がピーク。大きなところでは地場産の衰退、企業数の減少がある。大手企業の動向で税収の増減がある。法人が少ないため、企業の動向で影響が出る。

(質問・意見) 法人の数が少ないだけなのか、法人税を払う能力がない法人が多いとか。

(企画財政課長) 大枠の話だ。企業数の減少と、近年では大手企業の税収の動向が影響している。

ここでは全体の数や動きの分析はできていない。

(質問・意見) 市税全体が平成13年度と平成30年度で3億2,700万円減った。

市長が目標としている基金が3億円。個人市民税は増えているのに、法人税が半分は不思議。

そこはどう考えたらよいか。市民税が増えているのに法人税が減っているのはなぜ。

(企画財政課長) 平成16年度と19年度を比較すると大幅に増えている。税制の改定があり、地方に税を持っていこうということで個人市民税が増えた。19年度がピークで、その後は納税できる人の減となってきている。個人市民税は伸びているが、交付税で差し引かれることになるので、両方を見てほしい。

(質問・意見) 地方消費税の改定に関係ないのか。

(企画財政課長) 一定のルールで交付税の形で入ってくる。

(質問・意見) 職員の給与について。この状況で職員数も減らされて、人間関係や職場の雰囲気が悪いのではないかと。士気が下がらないようにしてほしい。職員給与1%減は心配だ。市の仕事は機械化できないし、市民の要求が大きいので、職員が神経をすり減らしているのでは。みんなが相互に理解しながらやっついていかないとうまくないと思う。

市の職員の自治大学校への研修へ行かせない話だが、米百俵ではないが、費用のかかるところはかけていってほしい。

(市長) 職員給与のカットについて、いろいろな意見をいただいている、組合が同意しなければ削減しない。これまでずっと人事異動もなかったので、働きやすい環境を整え、その結果、市民のためになると思っている。皆さんの意見を参考にしながら考えたい。

(質問・意見) 行財政健全化推進計画が成功、達成したとして、25年後の人口減少が、一番危機感がある。3年後に財政がよくなっても、25年後に加茂は町を通り越して村のようになるような人口だ。

(市長) 人口減少と少子化が、加茂市の一番の大きな課題だ。約25年後に人口が1万5千人くらいになるのは衝撃的な数字でもある。

基金3億円達成と、人口減少が食い止められることはイコールではないと思っている。

行財政健全化をするなかで、人口減少、少子化を止める政策をしていきたい。

その1つが、まず教育に力を入れたい、教育に魅力的なまちにして、若い世代にきてもらう。他にも移住定住促進に力を入れる。さらに今加茂市に住んでいる若者が定住するまちにする。

子供を産める女性の数が減っている状況だ、この下がっていくカーブが緩やかになるようにしていかなければならないと思っている。

(質問・意見) 今日の議論は儉約に尽きる。入る方を増やすことは、どう考えているのか。未納者から回収しても、増えた分には入らない。入る分を増やす施策は今後予算のなかで展開されるのか。

(市長) 一番、収入としてすぐに効果がでるのは、ふるさと納税を増やすこと。

それ以外で税収が増える施策をやらないといけないと思っている。税収に関しては個人市民税、法人市民税、固定資産税が増えないといけない。特に固定資産税が増えるには路線価があがっていかないとけない。それだけ、魅力あるまちになっていかなければならない。

時間がかかるが、何も手を打たなければ下がっていくばかりなので、手を打って行きたいと思う。もっと市に住んでもらう人を増やす、遠回りだが税収を増やすことになるので行っていきたい。

ある事業をすることで、補助率が高いとか交付税が入る、国の施策と県の施策と市の施策が一致しているのであれば、国の制度を利用していくようにする。

また、中央とのパイプは必要で国から引っ張ることも大事。しかし、個人的な力で補助率が上がるということではない。

(副市長) 長期的なスパンで考えると今までは福祉、とりわけ高齢者福祉に特化してきた傾向がある。

これから、少子化、高齢化が進むと、元気で長生きできるよう、病気・介護予防の事業が大事になる。

その結果、医療費が下がれば、これは全体で見れば市にとってプラスになる。

観光面では、広域連携で交流人口を増やす。

観光で人を呼び込む、加茂市だけではなく、近隣市、オール新潟で人を呼び込む、オールジャパンで外国人を呼び込むなど協力して活動していくことが必要だと思う。

時間がかかることだと思うが、産、学、官、金との連携でお金が回るような仕組みを作っていくことも大事だと思う。

※質問や意見交換のときに、一部聞き取れなかった部分もありました。ご了承ください。